

卒業した学生カウンセラーさん、今年卒業するカウンセラーさん、そして皆さんへ
たくさんの思い出をありがとう！！

T・M（小5女子、小2女子保護者 2026年2月記す）

◇今まで一緒に過ごしてくれた皆さんへ。たくさんの思い出をありがとう！！

もうすぐ4年生の皆さんが卒業されると思うとたくさんの気持ちがあふれてきます。なかなか会えなくなると思うので、メッセージを伝えたいです。「元気で健やかにこれからも生きて過ごしてほしい」。

我が子たちに、こんなに自然体で、子どもたちの人生の中に関わってくれたことに、たくさんの思い出とたくさんの感謝であふれています。

きっと皆さんの長い人生の中のほんの1ページ、一瞬の思い出や経験の中の出来事なのかもしれませんが、それが誰かの小さなきっかけ、大きなきっかけ、宝物になってくれたということを皆さんにも知っていただけたらいいなと思っています。

学生さん方がこれから先、アサヒキャンプで過ごしたことを、ふと思い出してもらえたらうれしいです。何かの折に灯火のように思い返してくれたら、もしかしたら元気や勇気をお返しできるかもしれないなと思うからです。

◇卒業のシーズンで思うこと お銀の思い出

お銀（活動年度2021～2024年度）は、2025年3月の春の川のほとりキャンプの最後に涙が溢れていて「4月から頑張ります」っておっしゃっていたので、「お銀は人に元気と勇気を与えてあげられる人です。だからそのままのお銀で先生になってもげんきにいてほしいです」って伝えました。泣いてくれて、すごくうれしかったです。

お銀は「男の子グループが多くて、女の子グループ初めて担当してKちゃんのグループですごくうれしかったです！！」って素直に言ってくれた時もあるって、お銀も一生懸命に関わってくれていましたし、うれしかったなと思い出しました。「プレゼント、女の子グループだから頑張っちゃいました！！」って。これもカウンセラーさんの熱意をはっきり感じた出来事です。今も元気で子どもたちと過ごしてくれているといいなと思っています。応援しています。

◇すごいなと思った初めてのこと アノネ（2021～2024年度）の思い出

2023年の夏の川のほとりキャンプで、娘は宿泊が怖くて、この頃は日中だけ参加していたので、私も皆さんと一緒に過ごすことが多かったのです。学生さんと子どもたちとの様子を直に見ることが多くありました。そこでたくさんの関わりを見せてもらって、温かい気持ちになりました。

娘がアノネと一緒に歩いていると、春日井市少年自然の家の玄関前のピロティーでひとり踊っているキャンパーさんとすれちがう時に「〇〇～ いいね！」とアノネが言っていました。あの頃の私は、「なるほどー」と思ったのですが、しばらくしてアサヒキャンプに参加している時にそのことを思い出した時、すてきな言葉かけだったのだと思いました。

今ほど「いいね！」をクリックするご時世？ではなかったし、「上手だねー」とかそういう言葉が私の

中では浮かびやすいと思うんですが、1人踊っている男の子にかけ言葉に「いいねー」って出てくるなんてなかなかできない気がして、すばらしかったです。

「いいねー」＝そのままを認めていた、ということなんだなあって思えたからです。

◇わんたん（2022～2025年度）の思い出

2024年の春の川のほとりキャンプの2日目だったと思います。この時も2日目の朝に春日井市少年自然の家へ送って行きました。グループタイムで女子グループとカウンセラー数人で、玄関前の広場でシャボン玉やシール遊びをしていました。「そのシール取って～」「おーありがとう～」って、お姉さん同士の会話で、わんたんが言っていました。それが軽やかで爽やかで素敵でした。ごく当たり前のやり取りだと思うのですが、まわりに子どもたちもいて、すごく、温かくわかりやすく、とても気持ち良かったです。私も「ありがとう」って使いたいなと思いました。

その後ずっとしばらくして、娘も何かしてもらった後に、「ありがとう。」と言っていて、うれしい気持ちになりました。そこに温かく伝え合える空気があるからでしょう。

◇アサヒは本当にあたたかい場所

ある日の事務所の行事マイスペースミニ、「あ、そうだったね。ごめんごめん。」と、中久木先生は学生さんにおっしゃっていました。娘にもそうやって接して下さっていることも常です。学生さんと先生との会話に対等だなと感じました。（もちろん敬意を表して学生さんは接してらっしゃいます。）大人が自然に「ありがとう」や「ごめんね」を伝え合えるってすごいなと素直に感じました。当たり前のことなのでしょうけれども、アサヒキャンプはそれが大人同士、子ども同士、子どもと大人、お兄さんお姉さん同士、カウンセラーさんとキャンパーさん同士、キャンパー同士、というふうにそれが自然に伝わっているんだなと思いました。

2024年の春の川のほとりキャンプの保護者交流会でキャンプのディレクターをしてきていた天ちゃん（2022～2025年度）から「アサヒは本当にあたたかい場所です」「このキャンプができたのも円堂のおかげです」とも言っていて、その言葉をよく覚えています。

「アサヒは本当にあたたかい場所です。4年間通わせてもらって、私も心からそう感じていたころでしたし、それをカウンセラーの皆さん、天ちゃんや円堂もそうやって感じてくれているんだなあとと思うとうれしくて、涙が出ました。

天ちゃんと円堂（2022～2025年度）がパパとママというキャンプでの役割の中で作り上げてくれた春の川のほとりキャンプも、とても温かいキャンプでした。進学進級前のちょっとドキドキそわそわした不安にも感じる時期のキャンプで、パパとママの温かさに子どもも保護者も「ほっとをもっと（翌年2025年春キャンプの合言葉）」になりました。あたたかい場所だからこそ、カウンセラーのみなさんが子どもたちのことを考えて、その子自身を見てくれているんだなあとと思います。

◇たくさんの言葉掛け

2022年からアサヒキャンプに参加させてもらって、4年間、自分の子どもたちに、「〇〇ちゃん！」「〇〇ー！」と、たくさんのお兄さんお姉さんからたくさん声をかけてもらって、ただそれだけで親子で

うれしくなります。

「よく来たね」「また会えたね」という温かくて優しい気持ちが伝わってきてすごくうれしいです。「〇〇ちゃん、おはよう！」ってニコニコで来てくれると、娘たちはいつもうれしくて、はずかしくて、そして笑顔です。

◇和（なごみ:2022～2025年度）、大好きです。

2022年秋のマイスペースミニ、楽習会で、和が「Kちゃん！！」ぎゅーって抱きしめてくれて、まだその頃小さかった小2の娘でしたが、照れながら、自分もギョッとしていいのかな…って感じでギョッとしていました。

会う度に向こうの方から和は手を広げて「Kちゃん！！」って待っていてくれて、「だいすきだよー」「じゃあまたねー」って抱きしめてくれていました。当時、学校にあんまり行きたくなくて、いろんなことが不安で一生懸命生きていた娘だったので、「ぎゅーっ」としてもらえて、照れながらもすごく、うれしそうでした。いつもそうやって迎え入れてくれて、大好きなお姉さんに、憧れのお姉さんになってくれました。4年間ずっとそうしてくれました。

誰かのことを好きになったり、興味を持つきっかけをくれて、本当に大好きで、ありがとうございます。永久推し！だと思います。笑。

「和、前髪をアイロンしてた♪」って「可愛い、もの、綺麗なもの、」が大好きな娘でしたけれど、お姉さんにときめいて、「いつか和とお泊まりできるといいな。和が卒業するまでにはー！」っていうのが目標になりました。（娘は宿泊にとても不安が強い子でした。）そう言いながらいつからか笑っていたので、いつかお泊まりできるかなーって感じました。和との時間は宝物ですね。

◇栞（2023年度～）ありがとう！

そう思っていたら、ある日閃いて、「あっ、家ではいつも添い寝をしているんだっ」とって私が思って、2024年、夏の川のほとりキャンプで担当してくれた天ちゃん、栞グループで相談したら、栞は「あ！できます、できます！」と言って、キャンプで一緒に寝てくださいました。お部屋もガーランドで可愛く飾ってくれて、感動しました。キャンプのお部屋はいつも温かい空気です。楽しい声が聞こえてきます。

その夜はお迎いの電話がかかってこなくて、「ああ眠ったんだなー」って思って夜を過ごしました。

翌日迎えに行くと栞から駆け寄ってくれて「泊まりました！」って。わたしは抱き合っただけで泣きました！すごいです。でっかいぬいぐるみと枕とライトと、いっぱい持って行って、寝袋持って、栞と一緒にベッドで、一泊できました！狭い中ありがとうございました！！一生の思い出です。

その後も会える度に「最近Kちゃんどうですか？」と聞いてくれて、とてもうれしいです。気にかけてもらえるなんて光栄です。うれしいです。

◇この子は何がどこまでできるのかな？

すこしできること、少しできないこと、興味のあること、その思考を皆がしてくれていて、何が好きなのかな？どうしてあげたらいいのかな、一緒に遊べるかな、ってずっとつき合ってくれます。すごいことだと思います。そしてそれがとてもうれしいのです。保護者以外にこんなに我が子のことを思って考えて一緒に喜んでくれる方は他にいないのではないかと思います。

そして学生さん方は、いつもキラキラした眼差しでこちらを見てくれています。きっとまっすぐに子どもを見にきてくれているのだろう、寄り添って隣にきてくれているのだろうと思います。それだけで子どもは認められていると体感するのでは、という気がします。

自己肯定感、という言葉があるけれど、子どもの頃にそんなこと考えて生きている子どもたちっていないと思うのですが（当たり前かな）、自分自身も、今大人になって、自分の子どもと過ごすようになってはじめて意識しました。自己肯定感を、自然に、ただ名前を呼ばれるだけで、自分が認められていると感じていると思います。そしてその体験が子どもの中に少しずつ蓄積されていくと思います。

話したことがあるお兄さんがいるとか、一緒に遊んだお姉さんがいるとか、少し知って、また話したいな、可愛いな、かっこいいな、ってだんだん好きになって、憧れたりして、そのお兄さんお姉さんに、また名前を呼んでもらって、一緒に過ごして。それが「いいね！」って言ってもらえているのと同じですし、認めてもらえるということはそういうことじゃないかなと思います。

実際に「いいね！」といった言葉や「楽しい時間」が、それに相当することが、沢山体験できる場所がアサヒキャンプなのかなと思います。

○卒業生の凜（2022～2024 年度）の言葉

2023 年の春キャンプの5月デイキャンプの保護者との交流会に参加してくれていた凜は、中久木先生に「アサヒキャンプの魅力は？保護者の方に遠慮なく伝えて。」と質問を受けて、「自分はよくわからずにアサヒキャンプに来ましたが、あれって思っているうちに、子どもたちがかわいくなって、関わるたびに変わっていく姿がうれしくて。アサヒキャンプ、沼っすね！」

子どもたちの変化や成長を一緒に喜んでくれて、楽しんでくれてそれもすごくうれしく感じると言葉でした。そんなカウンセラーさん方が、学校や園で、子どもたちや大人に、これからも関わっていてくれると思うと、出会えた子どもや大人たちはとてもラッキー、幸せになると思います。

担当した子どもたちはもちろん、その他の子にも「〇〇ちゃん！」「〇〇ー！」って、いつも声をかけてくれてありがとう！

そして保護者へもたくさん声をかけて下さってありがとうございます。すごくうれしいです。保護者も認めてくれていて、大人も自己肯定が上がります。

◇最後に、学生さん皆さんへ

4 年間アサヒキャンプでお世話になって、親子で温かい気持ちにしてもらって、娘の幸福度が高まりました。たくさんの宝物の時間をくれたお兄さんやお姉さんがいます。

そんなふうに誰かのこころに残っていると思って巣立っていただけたら嬉しく思います。きっと就職してご活躍されても、何かしらの壁にも当たるでしょうけれども、自信に思っほしいなーっと思います。皆さん今後もご活躍のことと思いますが、どうかご無理されずにそのままの皆さんでいてください。ありのまま一人ひとりに良さがあって、そのことにみんな力付けてもらいました。たくさんの時間をありがとう！

ずっと応援しています。また時々、いつかアサヒキャンプで、会えたらうれしいなと期待して待っています。書ききれないので、まただんだん追記したいと思います。笑。